



設計趣旨

七間町、そこは映画の町、娯楽の町として有名である。しかし、最近では映画を撮った後、そのまま駅周辺の市街地に流れてしまう。私たち学生もその中の一員である。このままでは映画館の移転、閉館でさらに七間町に人が来なくなり、廃れてしまう。どうしたら七間町を再び活気づけることができるか、そんな思いを抱きつつ、七間町通りを歩いた。ふと歩道を見とどろきと彫刻が飾られていた。どれも気付けずただ通り過ぎる。人々が芸術に無関心のよう。そこで七間町から大連芸大のアーティスト、静岡が誇る娯楽文化を発信する。町を歩く様々なアートがある、そんなアートの町に七間町は生まれ変わる。芸術は特別な場所で見られるものではなく、日常生活の一部になる。町全体がアートによって活気づき、賑わいを取り戻す。それが七間アートプロジェクト。

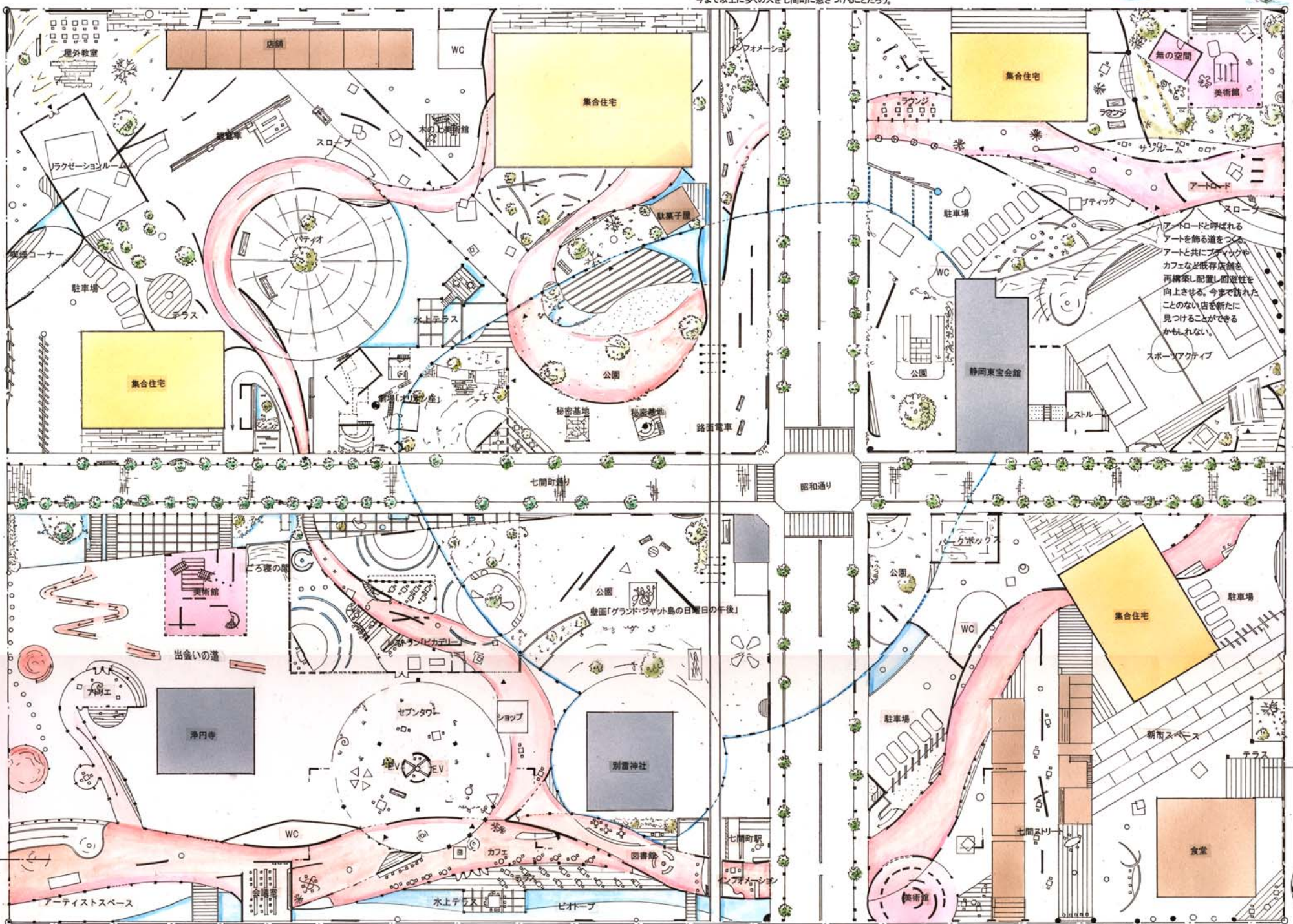
映画館跡地にアートの町として発信する劇場「オリオン座」を作る。ここではアートを知り、アートに関心を持ち、自分もやりたい、もう一度観たいという気持ちがこの地を活性化、七間町にアートという新しい風を吹かせる...

そして二つの大地を七間町に創る。この人工的な大地(Artificial Land)は地上には無い広々とした空間を創る。子供たちは自由に走り回り、元気に汗を流す。運動のスポーツ施設をつくるのではなく町全体をスポーツ広場し、バスケットコートや運動場で地域住民、美術学生、観光客が一掃になって、ぬくもりあるスポーツ大会が開かれるだろう。

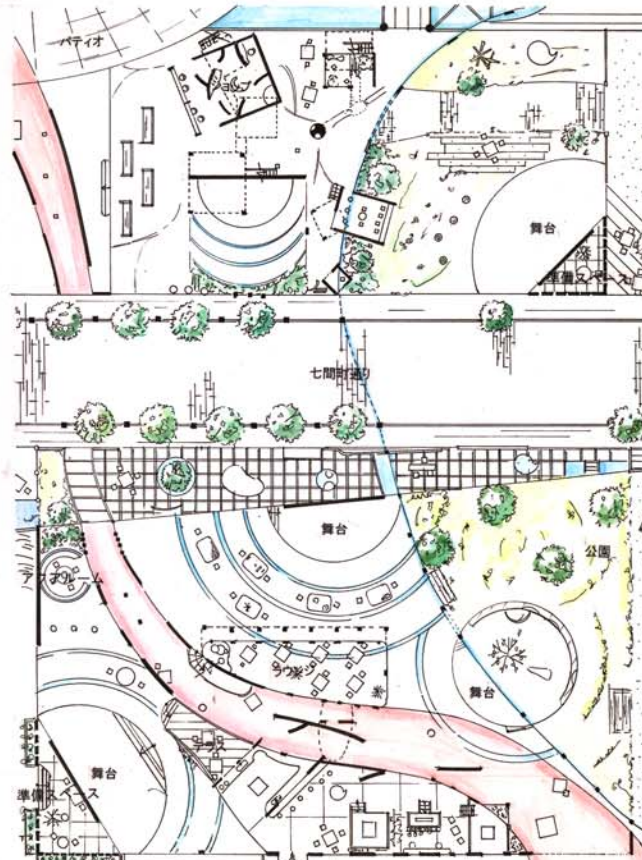
利用者・イベント・タイムスケジュール

利用者	6時	9時	12時	15時	18時	21時	24時
朝市	来客数が多い土日開催						
ウォーターアート			ウォーターアート 毎日11~17時公開				
ライトアップ						ライトアップ 17~23時公開	
パフォーマンス			パフォーマンス 9~12時、15~18時毎日二回開催				
幼児							
子ども							
青年							
高齢者							
観光客							

壁画「グランド・ジャット島の日曜日の午後」の保存
昭和32年から私生活を守り続けた壁画の町のシンボルであり、壁画街の証である。私たちが大人になった時、次の世代に映画街だったことを伝えたい。壁画はハニカムフレームで補強、耐久性を向上させる。壁画は新たに、通りに面する公園内に設置され、今まで以上に多くの人を七間町に惹きつけることだろう。



地上(Earth)平面図 scale1:500



劇場「オリオン座」レストラン「ピカデリー」平面図 scale1:300



劇場「オリオン座」レストラン「ピカデリー」
それぞれの場所に箱船が浮かんでいる。中には希望が溢れている。若手アーティストはこの箱船を眺め、より一層の努力を誓う。



子どもが引出しを開けっ放しにしたような変な自由奔放な塔。構造は制振に優れた五重の塔の構造を参考にし、エレベーションは不規則なボロイ図法を取り入れ、見るものに刺激を与える。セプタタワーは七間町最大のアートである。

